

令和元年度

第2回岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会 議事要旨

1 日 時 令和元年7月11日(木) 午前9時～午後5時

2 会 場 大垣市スイトピアセンター

3 議 事

(1) 会の成立宣言

- ・協議会委員29人中29名の出席があり、本会の成立を宣言した。

(2) 西濃地区採択協議会会長挨拶

- ・教科書の地区採択について
- ・根拠を明確にした採択について

(3) 第1回採択協議会以降の経過報告

- ・研究員による調査研究を、6月17日、6月28日、7月3日の3回実施した。
- ・着眼点に基づいて調査研究した結果を、発行者の特色として意見書にまとめた。

(4) 議案の審議

- ・規約第3条に基づき、採択協議会会長の進行で議事を行った。

第1号議案

- ・『令和2年度使用小学校用教科用図書についての調査研究結果』を報告し、種目ごとに協議及び採択原案を決定した。

国語

<報告>

- ・「東書」「学図」「教出」「光村」の4者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、国語の指導で重点とする着眼点（「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」、「体験的な活動、ICTや学校図書館等を活用した学習活動等の充実」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

- ◇：東書と光村の二者を比較しながら聞いていて、光村の方が主体的に学ぶ、体験を通して学ぶ手がかかりが多いという説明から、光村がよいと思った。
- Q：内容についてのことはよく研究されている。県の資料をみて、2分冊にしている発行者としていない発行者がある。また、デジタルコンテンツの数については発行者ごとに違いが見られるが、このことは検討したか？

Q：古典がかなり充実していると思う。奥の細道が5年生にある。古典の充実の比較の結果を教えてください。

A：分冊か合冊かという点で、我々は全て優れていると判断した。ただ、分冊は軽量化が図られる反面、他の学習との関連を参照する際、分冊にすると、上巻を見なければならない、下巻を見なければならないということが起きる。そのため、合冊が子どものためにはよいと思っている。デジタルコンテンツについては、光村には動画が閲覧できるようになっている。動画があるのは光村だけであり、その点で優れている。西濃は大垣市を中心にタブレットが進んでいるので、動画は魅力的だと思う。古典については、例えば、東書と光村を比較すると、光村の方が写真等で古典の世界をイメージして、学習に入りやすくする配慮がなされている。

<採決>

- ・種目「国語」の教科書については、発行者「光村」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

書写

<報告>

- ・「東書」「学図」「教出」「光村」「日文」の5者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、書写の指導で重点とする着眼点（「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成」、「体験的な活動、ICTや学校図書館等を活用した学習活動等の充実」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

Q：説明を聞いていると、「2－（1）現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する教育の推進」に顕著な差があるということだろうと思うが、その具体について教えてください。

A：「現代的な課題に対応して…」ということで、現代的な課題については社会的な課題について調査した。そういったことの内容の学習ができるかどうかを調査した。

Q：「現代的な諸課題」については、西濃地区の書写に関わる実態はこれで、それに関わる課題はこれ、ということなのかな、と思うが。

A：「実生活に生きて働く」という点で、体験的な活動、ICTについての教材が載せられているかどうかを特に調査研究した。

Q：意見書を見ると、防災・時事などをとりあげたものは光村の特色としてあげられている。防災や時事を取りあげるとなると光村の方がいいということでしょうか？

A：東書もちろん取り上げられている。光村の特に優れた特色、ということで取りあげた。東書については心、情操の部分を中心に優れた特色として取りあげた。

<採決>

- ・種目「書写」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

社会

<報告>

- ・「東書」「教出」「日文」の3者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、社会の指導で重点とする着眼点（「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」、「体験的な活動、ICTや学校図書館等を利活用した学習活動等の充実」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

- Q：2－（1）の説明を受けたが、もう一度詳しく説明してほしい。「低い土地の暮らし」のあたりの説明を聞かせてほしい。
- A：2－（1）について、東書は岐阜県海津市、教出は千葉県。より地域性を、身近なものを考えるときによりよいと考えた。
- ◇：学び方の説明もあり、教科書の中でもノートで書くべきところを教科書に書き込める欄があると、何を考えるか、特に思考していく部分が教科書に位置付いていると感じたので、東書の良さが分かった。
- ◇：感想になるが、東書にクイズが多いということ的特色としていたが、バランスが必要かと思う。極端なことを言うと、クイズは低学年には有効かもしれないけど、高学年では深くものごとを取りあげるには、イラストや写真のように立場によって捉え方が大きく変わるもの、社会の本質に考えて、どちらかに偏る、というのは適切なのかと感じた。
- A：御意見いただいたとおり、教科書としてどれが使いやすいか、と考えるとなるとクイズもその1つかと考えた。しかし、6年生は少なくなっていて、まとめる部分が増えている。そういうことから見ても東書は工夫されていると考えた。

<採決>

- ・種目「社会」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

地図

<報告>

- ・「東書」「帝国」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、地図を活用した指導で重点とする着眼点（「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成」、「補充的な学習及び発展的な学習など、個の学習状況に応じた指導の充実」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

- ◇：それぞれによさがあるが、帝国の方が地図の学びが図をもって示されていることや、ほどよい縮尺で県の形を示していてよいと感じた。東書はイラストがかえって邪魔になるように感じた。
- Q：帝国の53ページと東書の41ページに西濃地域を描いた地図がある。東書は「中部地方」の文字の下に関ヶ原がある。53ページは伊吹山まで入っている。大きな違いだと思うが？
- ◇：内容的なところというより、見た印象だが、6年生の後半部分の自然や特産物の比較をするとぱっと見、東書の方が見やすいのではないかと思う。

A：中部地方について。この地域に住む者としては、地域全体がレイアウトされているという点でふさわしい表記となっている。他の場面でも、地域が「切り取られないような配慮」がなされている。また、中部地方の都市圏図を載せている部分があるが、5年生の社会科等で大いに活用できると考えた。見やすさの観点については、東書の方が写真資料等が鮮明でたくさん載っているページもあるが、社会科の学習として比較関連付けながら活用する資料として考えると帝国の方がふさわしいと考えた。

<採決>

- ・種目「地図」の教科書については、発行者「帝国」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

算数

<報告>

- ・「東書」「大日本」「学図」「教出」「啓林館」「日文」の6者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、算数の指導で重点とする着眼点（「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」、「体験的な活動、ICTや学校図書館等を活用した学習活動等の充実」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

Q：県の調査結果の報告をみると、例えば、プログラミングについては結構他の発行者も扱っている。大日本より、他の発行者の方が多と思うのだが、県の調査結果との差異についてはどうか。

◇：デジタルコンテンツの話があったが、説明のとおり、一部の発行者では低学年からコンテンツが入っているところがある。校内のWEBの整備がなかなかそろっていないところもあるので、今後環境の整備も参考にしていきたい。環境が整備されている学校は有効に活用できると思う。

Q：一覧表を見ると2－（1）に各者の違いが出ている。国際理解や人権の差はどのように調査研究を行ったのか。

A：県の調査結果との差異について。西濃の算数指導と考えたとき、十分に算数の力をつけきっているとは言い切れない。その中でより丁寧で具体がたくさん示されたものを中心に考えた。

A：コンテンツについてはどの者も十分にある。その中で大日本が優れていると判断したのは、プログラミング教育についてスクラッチというソフトを使っているという点。他の発行者では自社のホームページを使うものがある。スクラッチはマサチューセツ工科大学が無料で提供しているソフトで、現場でもたくさん使われている。より汎用性が高い。そこで学習したことが他教科や他領域で使える。また、AIを使ったシミュレーションもある。

A：2－（1）について、どの者も現代的な諸課題についての取り上げが見られた。しかし、大日本はメインで出てくるキャラクターに外国にルーツをもつであろう子も出てきて、人権的にもよいと思った。

<採決>

- ・種目「算数」の教科書については、発行者「大日本」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

理科

<報告>

- ・「東書」「大日本」「学図」「教出」「信教」「啓林館」の6者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、理科の指導で重点とする着眼点（「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する教育の推進」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

Q：「2－（2）体験的な活動、ICTや学校図書館等を利活用した学習活動等の充実」について、プログラミングだが、学習指導要領に提示してある6年生の「電気」の単元ではどの者もある。大日本についてはアンプラグドもある。教員が指導するとなると、指導しやすくなっているのか。コンテンツがあるという説明だったが、数でいうと他の者も多いがなぜ東書を選んだのか。

Q：東書（5年生）の102ページに水溶液のまとめがある。一方で教出は189ページに「物が水に溶けると水溶液と言います。」と言ってスタートしている。その違いをどう評価したか教えてほしい。

A：東書は「ものが水に溶けた液のことを水溶液と言います。」と言っていて、教出は「透明な液を水溶液と言います。」と言っている。この表現のことでよいか。

Q：表現の違いでなく、位置付け方。まとめのところで用語の定義をしているのと、実験の前で定義をしていることの違いについて。

A：他にも、まとめで用語を定義しているものと導入で定義しているものがある。6年生の光合成でも、教出は「でんぷんがいる」から始まり、東書は「でんぷんがいるのかな」から始まっている。西濃の予想・仮説に重点をおいた実践を求められていることから、入り口で答えを教えてから考えさせるのではなく、その部分で議論しながら学ぶ方が西濃に合っていると考えた。

A：コンテンツの有用性ということだが、東書は数だけいうと54と少なく見えるが、1つのコンテンツから複数を見ることができる。そういうことを考えると、トータルいくつというのは差がないと考えた。どの者も大きな差はないということとしてとらえた。

A：プログラミングの扱いについて、教出は162ページに「プログラムを入力してやってみよう」とある。東書は授業の流れの中で「プログラミングをやってみよう」と活動が組まれている。子どもたちの思考、授業全体の構成を考えると、一連の学習の流れの中で位置付けている東書の方がより西濃の子にふさわしいのではないかと考えた。

<採決>

- ・種目「理科」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

生活

<報告>

- ・「東書」「大日本」「学図」「教出」「信教」「光村」「啓林館」「日文」の8者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、生活の指導で重点とする着眼点（「資質・能力の3つの柱をバランス

よく育成」、「補充的な学習及び発展的な学習など、個の学習状況に応じた指導の充実」)を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

◇：生活科で大事にされているのは学んだことをどれだけ自分のものにし、日常生活に生かすかということだと思う。そのような視点でみると、東書には「家ではこんなことするといいよ」という記述もあり、児童が家でもやってみようという思いなのでよいと思った。また、取り外しのできるポケット図鑑は持ち歩いて活用しやすいと思った。

◇：生活科を学ぶのが1・2年生であるということから、学び方の見通しがもてる、というのはとても大事だと思う。答えをすぐ出すのでなくて、学びながら少しずつ気付いていくところがよい。学びの定着、学びの意欲という点でも東書が優れていると思う。

Q：「3－(2)文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等」において、東書と啓林館に差があるということだったが、その差が分かるところを詳しく教えて欲しい。また、東書では変わった教科書になっている。下半分が切れている、右が少し切れている、という形態を研究員会ではどんな評価をしたか。

A：3－(2)については東書を手にとってもらうと分かるが、写真がきわめて美しい。光の加減、子どもの表情がくっきりしている。啓林館とは明らかな差があることが分かるはず。また、啓林館は写真の情報量が多すぎるという声もあった。

A：装丁や紙面の工夫がある、ということについて、最も大きい教科書が東書。最初は東書の教科書が児童の引き出しに入らないと思った。しかし、実際の机に入れてみたらぴったりのサイズではいった。

Q：教科書の下が切れたりしていることについて、どのように評価しているか。

A：各者同様の工夫はある点では評価は分かれぬ。その中で東書は子どものイラストと見事に合致しており、工夫されていると評価した。

<採決>

- ・種目「生活」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

道徳

<報告>

- ・「東書」「学図」「教出」「光村」「日文」「光文」「学研」「廣あかつき」の8者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、道徳の指導で重点とする着眼点（「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成」、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する教育の推進」)を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

Q：光村と光文について、光村のQRコードは端末で読み取るとどのような内容がでてくるのか。

◇：感想になるが、情報モラルということで、昔は子どもにスマホを持たせない、という風潮だったが、今は中学生になるとたくさん所持している。小学校低学年という、スマホを持たせないうちから指導するというので、それは必要なことだと思った。

◇：私にも子供がいるが、ゲームやスマホの正しい扱い方を扱っていて、よいと思う。

Q：非常にたくさんの調査研究をしていただき、ありがたく感じた。光村は考え、議論する方法が位置付けられ、この点では甲乙付け難いと感じた。ただ、情報モラルに関してはかなり低学年から指導していくというのが主流になっているので、これを踏まえると光文が優れていると思う。「1－(2)各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性」も大事な項目だと思うが、光文よりも光村が優れていると評価したことについて教えていただけるとありがたい。

A：QRコードは「教科書連動コンテンツ」と呼ばれるものがあり、写真を大型テレビなどで映すことができたり、関連する資料を映すことができたりする。範読を声優が行うというものもある。また、授業で使える参考の写真や動画もある。光文には教科書にコードはないが、デジトク、というコンテンツが指導書に無償で付いてくるので、光村と同様の評価を行った。

A：1－(2)について、1～12に「A 周りの人とよりよい関係を築くって？」そして13～23は「B 広い視野と人や社会と関わるって？」とあり、3学期は「C 自分の生き方を見つめるって？」と構成されている。1年生だけA→B→Cの順番となっていて、2年生以上はB→C→Aの順番となっている。生命のDはどちらも年間を通して位置付けている。光村はよく考えられた配列だと判断した。光文も配列に工夫がなされているが、より明確にそれが分かるという点で評価が分かれた。

<採決>

- ・種目「道徳」の教科書については、発行者「光文」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

図画工作

<報告>

- ・「開隆堂」「日文」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、図画工作の指導で重点とする着眼点（「各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性」、「補充的な学習及び発展的な学習など、個の学習状況に応じた指導の充実」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

◇：特に岐阜県に関わる作品等、というところで2つの発行者で差があるなと思った。地元に着をもってもらおうという点では、日文がよいと思った。

◇：日文は岐阜県の魅力をたくさん紹介し、子どもも岐阜の良さ・魅力をたくさん味わいながら学習できると感じた。

Q：着眼点ごとの評価で言うと、日文が優位な点が多いが、唯一、日文のデジタルコンテンツについては、開隆堂の方が優れているという評価がなされたが、図画工作ではICTの活用は無くてもよいのか、検討したのか教えて欲しい。

A：開隆堂については、教科書にQRコードが掲載されている。スマホなどで読み込むと、さらに指導するとよいことが提示されるようになっている。日文はデジタル教科書が準備され、方法こそ違うが、どちらもデジタル関係の教材が位置付けている。評価が分かれたのは、教科書に位置付けているかという点で判断した。

<採決>

- ・種目「図画工作」の教科書については、発行者「日文」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

家庭

<報告>

- ・「東書」「開隆堂」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、家庭の指導で重点とする着眼点（「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成」、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する教育の推進」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

- ◇：東書を見て、「プロに聞く」という項目や生活を変えるチャンスというのはよりよい生活にするための「窓」の1つとしてとても大事だと思う。思わず保護者も見てしまう。料理も学校で習ったことを実際に家で子どもでも作れる、基本的な調理が書いてあってよい。裁縫もボタンの付け方裏から書いてあって、子ども目線でとてもよい教科書だと思う。

<採決>

- ・種目「家庭」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

保健

<報告>

- ・「東書」「大日本」「文教社」「光文」「学研」の5者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、保健の指導で重点とする着眼点（「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成」、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する教育の推進」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

- ◇：東書と学研が僅差かなあと思ったが、子どもの思考や心と体の両面についての点では東書がよいのではないか思った。がん予防についても両方記述があり両者差がないと考えると、東書かなと思った。
- ◇：東書のページ数が多いことに驚いた。見開きで見やすいが、内容を見たときに実生活に結び付けていくということでは、学研と比べると東書の方が優れていると思った。どの分野においても東書は丁寧に作ってあって、自分の考えを実践に結び付けていると感じた。東書がよいと思う。

<採決>

- ・種目「保健」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

英語

<報告>

- ・「東書」「開隆堂」「学図」「三省堂」「教出」「光村」「啓林館」の7者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、英語の指導で重点とする着眼点（「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成」、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する教育の推進」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

Q：現在小学校では「We Can!」を使っていますが、それとの関わりについて教えて欲しい。

A：文科省の新教材で、今の子どもたちが使っている「We Can!」を意識した配列になっている。「We Can!」で学習した子がスムーズに新しい教科書に移行できるよう、配慮されている。

Q：特に東書が、ということか。

A：どの教科書も配慮されている。

Q：東書と光村の評価について、1－（3）については評価が分かれているが、どうしてか。

A：例えば、東書は自分の将来に関わって時間割を作る。ただ単に時間割を作るのではなく、夢に向かって主体的に取り組めるように工夫されている。具体的には5年生30、31ページ。光村は5年生の40～47ページにオリジナルの時間割を作ろう、なんです、やはり東書の「自分の夢に関わらせた時間割をつくる」ということが魅力的な教材だと思う。

Q：より東書の方が主体的に学習できるだろうと判断したということでしょうか。

A：はい。

Q：英語を専門としない先生が発音に困ると思うが、そこについて工夫している発行者はあるか。

A：QRコードがあるので、どの子も発音を自学できるようになっている。教師自ら自分の研修のために使うこともできる。このような工夫については、どの発行者にもある。

<採決>

- ・種目「英語」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

音楽

<報告>

- ・「教室」「教芸」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、音楽の指導で重点とする着眼点（「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成」、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する教育の推進」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

- ・質問・意見なし。

<採決>

- ・種目「音楽」の教科書については、発行者「教芸」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

第2号議案

- ・『令和2年度使用中学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」以外）についての調査研究結果』を報告し、協議及び採択原案を決定した。
- ・全員一致で案どおり可決した。

第3号議案

- ・『令和2年度使用中学校用教科用図書「特別の教科 道徳」についての調査研究結果』を報告し、協議及び採択原案を決定した。
- ・全員一致で案どおり可決した。

第4号議案

- ・「附則9条本」の扱いについて説明した。
- ・全員一致で承認した。

(5) 連絡

- ・各市町（組合）教育委員会において、8月13日までに議決をとることを依頼した。
- ・議決が調わない場合は、規約等に基づき再協議となることを確認した。
- ・8月31日までは、一切を非公開とする。議決の内容について他言しないよう依頼した。
- ・9月1日以降、公開請求に応じて協議会委員の名簿等が公開となることについて了承を得た。
- ・各市町（組合）教育委員会において、情報公開の準備を進めることを確認した。

令和元年度第2回岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会の議事録は上記のとおりです。

岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会

会長 山本 謙

副会長 加藤 栄二